## （3）具体的な授業の構想

子どもたちが『めざす子どもの姿』に向かって主体的に学んでいくためには、解決する**必然性**のある教材や課題に出会わせ、**見通し**をもって学習していくことができる授業づくりが大切です。

### １時間の授業の構想

１　教科の目標
２　子どもの実態
３　ねらい（本時でめざす子どもの姿）
４　**ひと工夫しためあて**

５　中心となる学習活動
・めざす子どもの姿に向かうための**言語活動の充実**（体験活動、説明、資料の活用等）

６　振り返り
・めざす子どもの姿
・**めあてに対する振り返り**（自分の変容・成長、学びの実感）

**ポイント**

◆めあての工夫をする。
◆言語活動の充実を図る。
◆振り返りと評価をする。

## ①　めあての工夫

「今日は何をするのかな。」という子どもの意欲を大切にし、子どもたちが主体的に学ぶ授業づくりをするためには、学習のめあてを示すことが有効です。工夫しためあてを示すと、**教師も子どもも１時間の授業でめざす姿をはっきりとイメージする**ことができます。

| | めあてなしの場合 | 工夫しためあてを示した場合 |
|---|---|---|
| 教師 | ○指導内容が広がりすぎ、指示が多くなる。<br>○どの場面でどんな評価するかわかりにくい。 | ○めざす姿が明確になり、発問がシンプルになる。<br>○評価が可能になり、指導に生かすことができる。 |
| 子ども | ○指示待ち、受け身になりがち。<br>○活動の目的がはっきりしない。<br>○達成感・満足感が得られにくい。 | ○目的意識をもって、意欲的に学習活動に参加できる。<br>○達成感を感じ、次の学習への意欲となる。 |

**ポイント**

◆めざす姿を具体的にしたうえで、１時間のめあてを工夫する。

# めざす子どもの姿を明確にして、わくわく感のあるめあてを仕組む

めあては、本時１時間の見通しをもつためのしかけです。学習課題を解決していくための手がかりをつかむことで、「できそう。」「こうやったらどうかな。」という意欲が高まります。おもちゃ箱を開ける時のようなわくわく感のあるめあてを工夫したいものです。何をどんなふうに提示し、めあてをもたせるか、知恵のしぼりどころと言えます。

## めあてにひと工夫！

**例えば**

【小学校６年家庭科】　「朝食を考えよう」
ねらい　：　簡単で栄養バランスがとれ、家族のふれ合いを深めるための朝食献立を考えることができる。

【例１】教科書の見出しそのままのもの

**めあて　栄養を考えた朝食にしよう**

Ｃ「栄養のあるものってなんだろう。」
Ｃ「野菜をいっぱい使うといいのかな。」
Ｃ「体をつくるもとになる食品を使ったメニューって、どんなものがあるだろう。」
Ｃ「栄養のバランスのよい朝食だと、作るのが難しそうだな。」

【例１】のめあてでは、栄養という言葉にとらわれて、本時の学習でねらいたい簡単にできて栄養のバランスが取れ、家族とふれ合うことができる朝食を考えることが難しくなってしまいます。さらに、生活で実践してみようという意欲まではつながりにくくなってしまいます。

【例２】めあてに工夫を加えたもの

**めあて　家族が元気もりもりになる朝食メニューを考えよう**

Ｃ「にんじんの苦手な弟のために、この前学習したいり卵ににんじんを入れてはどうかな。」
Ｃ「いつも忙しいお母さんのために、お母さんの好きな納豆を使って、栄養たっぷりの野菜いため納豆どんぶりにしよう。」
Ｃ「ホットプレートを使って、家族みんなで好きなものを焼いて食べると、簡単で楽しい朝食になりそうだな。」

【例２】のめあてを示すことで、子どもたちはそれまでに学習した知識や技能を使って、家族が元気になるためのメニューを家族の顔を思い浮かべながら考えます。そして「今度の休みにやってみようかな。」という実践への意欲が高まります。

## めあてを意識した振り返りを！

振り返りは、教師が子どもたちの学びを見取るためのものだけでなく、子どもたちが自らの学びを確かめるために位置づけられるものでもあります。そのポイントは、めあてに対する振り返りであることです。

めあてを工夫することで子どもたちの学習する姿のイメージもずいぶん変わってくることが分かります。授業づくりは、教師のイメージ力が大切です。めざす子どもたちの姿を思い浮かべながら、めあてにこだわりたいものです。

# ②　言語活動の充実

学力に関する各種の調査から、今の子どもたちの思考力・判断力・表現力等には課題があることが明らかになっています。
**思考力・判断力・表現力等を育むために**、次のような言語活動を適切に位置づけて各教科の目標の実現をめざすことが大切です。

○ 体験から感じ取ったことを表現する
○ 事実を正確に理解し、伝達する
○ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする
○ 情報を分析・評価し、論述する
○ 課題について構想を立て実践し、評価・改善する
○ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

*『言語活動の充実に関する指導事例集（文部科学省）』より*

☆各教科において気を付ける点に違いはあるのでしょうか？
☆学年での違いはどうでしょうか？

**ポイント**　【教科において言語活動を充実させるための基本的な考え方】
☆国語科と他の教科の指導の仕方に違いがあります。

＜国語科においては＞
○４つの基礎的・基本的な国語の力を定着させる。
○言葉の美しさやリズムを体感させる。
○記録、要約、説明、論述等の活動を行う能力を培う。

＜各教科等においては＞
○従前の指導を把握・検証した上で各教科等の目標と指導事項との関連及び児童生徒の発達段階や能力を踏まえて言語活動を計画的に位置づけ、授業構成や指導の在り方を工夫・改善していく。

**ポイント**　【児童生徒の発達の段階に応じた指導の充実】
☆発達段階に応じた指導を段階的に積み上げていくことが大切です。

【例】

＜低学年では＞
○主語と述語（性質、状態、関係など）を明確にして表現する。
○比較の視点（大きさ、色、形、位置など）を明確にして表現する。
○時系列（まず、次に、そして　など）で表現できる。

＜中学年では＞
○判断と根拠、結果と原因の関係を明確にして表現する。
○条件文（「もし、○○○ならば、△△△である」）で表現する。
○科学用語や概念を用いて表現する。

＜高学年では＞
○演繹法や帰納法などの論理を用いて表現する。
○規則性やきまりなどを用いて表現する。

＜中学校では＞
○帰納・類推、演繹などの推論を用いて、説明し伝え合う。
○日常生活の中で気付いた問題について、意見をまとめ説得力のある発表をする。

言語活動については、国語科で培った能力を基本に、すべての教科等において充実することが大切です。その際、各教科の特質を踏まえつつ国語科との関連を図りながら、知識・技能を「活用する」学習活動に取り組むことが必要です。

# 言語活動の充実を図った学習活動を展開する

ここでは、小学校の国語科と算数科の例を紹介します。学習展開においても「付けたい力」を明確にし、単元や授業を構成することが大切です。

## 【国語科の例】関心意欲を高める
### 単元構想の４つのステップ

①**単元で付けたい力**を明確にする

②**付けたい力を達成するために、ぴったりの言語活動**を選ぶ

③言語活動を遂行するために必要な**具体的な能力**を明確にする

既に身に付けている力と、付けたい力を明確に

④その能力を身に付けるための**指導過程を工夫**する

「大造じいさんとがん」（第5学年）を例に

①指導事項C(1)オから「本を読んで考えたことを紹介し合い、自分の考えを広げたり深めたりしながら読む」をねらおう。
②言語活動として「一番魅力の場面を紹介する本の帯を作る」ことを設定しよう。
③印象に残ったところを見つけながら読むことはできる。（身に付けている力）
　本文の中から語彙を選んで、推薦できるようにしたい。（付けたい力）
④第２次では、一番魅力的な場面を考えながら読ませよう。第３次では、選んだ本を、本の帯をもとに紹介し合わせよう。

国語科では、特に単元構想（児童・生徒の実態をもとにしながら、どんな言語活動を設定するのか）が大切です。「学習指導要領解説国語編P130～」では、言語活動例を一覧できます。次のような学年の発達の段階を大切に、単元全体を通した言語活動を位置づけましょう。

低学年：「大好き・お気に入り」など新鮮な思いや願いを重視して
中学年：「はてな・もっと知りたい」という思いや願いを重視して
高学年：「こんな発見があった」「自分はこう考える」という思考や判断、感動を重視して

**授業では**　本時の学習活動（例えば第２次の各時間）にも、その選んだ言語活動を位置づけましょう。

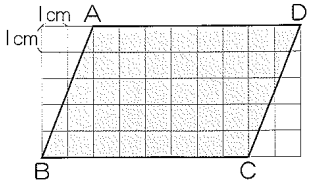
## 【算数科の例】
### 問題解決学習の授業場面において

①問題提示場面
**言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて**、思考や表現をしたくなるような提示をする
（思考の必然性）

②自力解決場面
**期待する児童の算数的な活動の様相**を考え、活動を促したり、活動の質を高めたりする支援を行う

③練り上げの場面
**児童の活動をつなげ**整理しながら、本時のねらいにせまる

「平行四辺形の面積」（5学年）を例に




①いろいろな求め方があることを伝えて意欲を高める。
②数学的に価値付けされた面積の求め方ができるように、全体・個別に対する支援を考えておこう。
③様々な面積の求め方を、既習事項（三角形や長方形）を活用して説明させよう。整理して理解を深めさせよう。

算数科の言語活動のねらいとして、学習指導要領に「数学的な思考力、判断力、表現力等を育成すること」が明示されています。

**授業では**　次の点を大切にしましょう。

○図や式、表やグラフが**思考する道具、表現する道具**となるよう活動を仕組むこと
○積極的に**既習の算数用語**を活用すること
○普段から**根拠を明らかにして説明する**習慣づくりをすること

「言語活動の充実」自体が目的ではありません。各教科の目標の実現のために単元を見通し、児童生徒の実態を踏まえて１時間の授業を計画し、より的確な言語活動を組みましょう。それを的確に評価し次時に生かす実践を積み重ねることで、授業は改善されます。

# 各教科の言語活動の充実した活動・取組例

目標にぴったりの言語活動を工夫し設定することで、教科のねらいを達成することができます。ちょっとしたアイディアを取り入れることで内発的学習意欲が高まり、子ども自ら話したくなる、書きたくなるような活動になります。

**小学校生活科　第１学年「アサガオさんおおきくなあれ」**

本時目標　夏休み中も家庭でアサガオが大きく育つように世話をしようという気持ちをもつことができる。（関心・意欲・態度）

1　「まほうのでんわ」を使ってどんなアサガオになってほしいか伝え、アサガオの声を聞く。（体験活動）

◆ほかにも「ひみつのペンダント」「まほうのつえ」など、アサガオと話ができる道具の工夫はいろいろあります。

毎日水やりをしてくれてうれしいって言っているよ。

2　アサガオと話したことをグループ内で伝え合い、アサガオカードに書く。（表現活動）

◆「自分だけが知っているアサガオの声を友だちに伝えたいな。友だちのアサガオはどう言っているんだろう。」など話したくてたまらなくなります。

3　夏休み中に自分がする世話について、アサガオに約束する。（体験活動）

◆アサガオに直接働きかける活動を繰り返すことで新しい気付きが生まれたり、さらにこうしたいという次の活動への意欲が高まったりします。

毎朝、きれいな花の色を見に行くよ。暑くなりそうな日には、たっぷり水やりをするね。

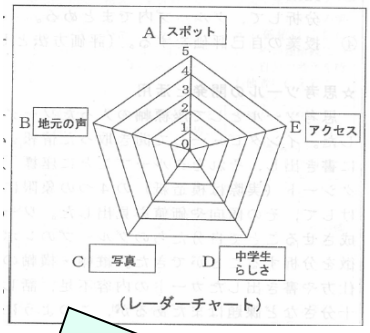
4　アサガオと約束した世話について発表する。（表現活動）

◆書いたことを板書に生かしてもらえると、子どもは喜んでどんどん書きたくなります。

わくわくしながら「こうしてみたらどうだろう。」「早くやりたいな。」と体験活動と表現活動を繰り返すなかで、意欲的に対象とかかわることができます。さらに、気付いたことを比べたりたとえたりすることは、気付きの質を高めることにもつながります。

だれに、何のために、どのように伝えるのか明確にしておくことを前提に、付せんや写真などの道具を使うことは、子どもたちの**主体的な学びを促す有効な手立て**となります。

**アイディア例①**
**【レーダーチャートを使って図形に表す】**
中学校　第２学年　総合的な学習の時間　「地域情報誌の誌面をもう一度工夫してみよう」



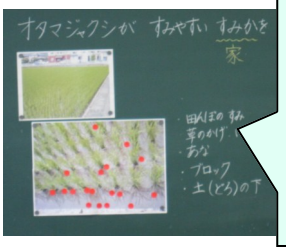
（レーダーチャート）

**ポイント**
◆見直しの視点についてレーダーチャートに表すことで、自分たちの願いと観光客のニーズに合った情報誌作成へ生かすことができる。

**アイディア例②**
**【付せんを使って地図に表す】**
小学校　第３学年　社会科
「八頭町の紹介地図を作ろう」

**ポイント**
◆どこを調べたか付せんを使って地図上に表すことができる。

**アイディア例③**
**【シールを使って写真に表す】**
小学校　第２学年　生活科
「オタマジャクシのすみかを考えよう」




**ポイント**
◆オタマジャクシを見つけた場所をシールで田んぼの写真上に表すことでどんな場所に住んでいるか再現できる。

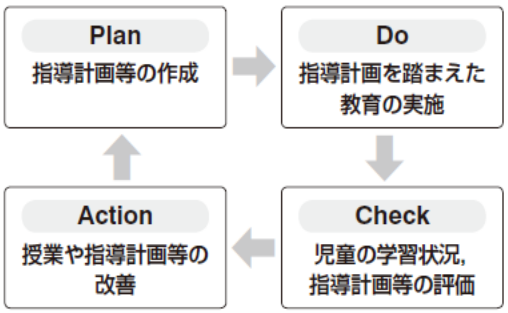
**この３例のほかにも、こんな道具があります**
可視化するための道具例：
　黒板、ミニホワイトボード、小黒板、ワークシート、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、など
操作性のある道具例：
　付せん、カード、ワークシートなど

子どもたちが気付いたことや考えたことを伝え合うとき、**可視化すること**で友達に分かりやすく伝えることができます。また、**操作性のある道具**を取り入れることで、友達の考えと比べたり関連づけたりしながら思考を深めることができます。そこには、伝える必然性があることも重要な要素となります。

# ③ 学習評価

学習評価は、児童生徒の学習状況を検証し、結果の面から教育水準の維持向上を保障するためのものです。「学習指導の在り方を見直すこと」「個に応じた指導の充実を図ること」「学校における教育活動を組織として改善すること」を通して、教師が自らの指導を振り返りながら、指導の質を高めることが最も重要です。

**学習指導と学習評価のPDCAサイクル**




日常の授業、単元等の指導、学校における教育活動全体など、それぞれの段階においてPDCAサイクルを回していく。

**児童生徒にとって**

⇒ 自らの学習状況への気付きや達成感、学習意欲の喚起の契機

**保護者にとって**

⇒ 子どもの学習状況の把握と不安の解消、学校の指導方針のさらなる理解の契機

**目標に準拠した組織的・計画的な指導と評価を!**

**ポイント**

■指導と評価は、学習指導要領に照らして行う。

■評価規準は、国立教育政策研究所が示している「評価規準の作成のための参考資料」をもとに作成する。

・**単元（題材）ごとの観点別の評価規準** ⇒ 「内容のまとまりごとの評価規準に盛り込むべき事項」（以下、「評価規準に盛り込むべき事項」という）

・**学習活動に即した具体的な評価規準（本時の評価規準）** ⇒「評価規準の設定例」

◇ 評価規準の作成のための参考資料」は、「おおむね満足できる」状況（B）を示している。

◇ 各教科の「評価の観点及びその趣旨」並びに「学年別の評価の観点の趣旨」も確認しておく。

**本時の評価規準作成までの基本的な流れ**

自校の指導計画に基づき、単元（題材）ごとの観点別の評価規準を作成する。

**Step 1** 学習指導要領に示す各教科の目標、学年目標及び内容を確認し、指導を通して付けたい力を明確にする。

**Step 2** 「評価規準に盛り込むべき事項」をその単元（題材）に合ったものにして、単元（題材）レベルに落とし込む。

単元（題材）の指導計画に基づき、本時の具体的な評価規準を作成する。

**Step 3** 「評価規準の設定例」を参考にしながら、本時の学習活動に即して「評価規準に盛り込むべき事項」を具体的に書く。

# めあてに対する振り返りを位置づける

**振り返り重視の根拠として**

◆「各教科の指導に当たっては、児童（生徒）が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるよう工夫すること」（学習指導要領総則）

（学習指導要領解説総則編においては、「今回特に規定を新たに追加したものである」と説明されています。）

## 何のための振り返りか？

＜創意工夫した学習過程＞
① 導　入 …　学習の見通しを的確にもつ
② 展　開 …　主たる学習活動を充実させる
③ まとめ …　**学習活動・内容を振り返る**

**主体的学び**

**「見通し･振り返り」の学習活動を各教科等の指導の中に計画的に取り入れることが重要！**

・学習意欲の向上
・学習内容の確実な定着
・思考力・判断力・表現力等の育成

**確かな学力**

児童生徒にとって
⇒ 学習の達成感、学んだ内容の再確認、次時につながる学習意欲と見通し
教師にとって
⇒ 本時の指導を振り返る、次時以降の指導への反映

**例えば**

【中学校２年：国語科】　『徒然草』から教訓を学ぼう　（読むこと）
ねらい：徒然草の章段に表れている兼好法師のものの見方や考え方に触れ、自分の知識や経験と関連付けながら、自分の考えをもつことができる。

第１次　単元全体の見通しをもつ。
第２次　教科書教材「仁和寺にある法師」の話を読み法師の失敗理由と作者の教え（教訓）を考える。
**第３次　「仁和寺にある法師」での(本時)学習を活かし教科書にない他の章段を選んで、そこに書かれた教訓を自分の力でまとめる。**

**本時のめあて**
自分の選んだ話の内容から、兼好法師の伝えたかったことを考えよう。

**本時の振り返り**
兼好法師のものの見方や考え方について、自分の経験などと関連付けて、あなたの考えを200字程度でまとめましょう。

**ポイント**

◆ 振り返りの目的を子どもたちに伝えること
◆ 振り返る視点を子どもたちに示して意識させること
（単に頑張ったことや感想を書くのではなくて、めあてに対して書くということを意識させる！）
◆ 学習過程における評価言なども大切にしていくこと
◆ 書かせることだけにこだわらないこと

【子どもの振り返り例】
私は、「あやまちは、安き所になりて、必ず仕ることにさうらふ」という教えにとても納得した。私もこの高名の木登りの話のように、最後に安心してしまい……。

「時間がなくなってしまい十分な振り返りができなかった」という経験はありませんか。子どもたちが主体的に学ぶ授業づくりにおいて、振り返りは重要な学習活動です。めあてを踏まえた振り返りを位置づけることとあわせて、その時間をしっかり保障することにもこだわりたいものです。